

「公衆衛生」第76巻総目次

2012年(第1号～第12号)

数字は通巻頁数, ()は号数

特 集

◆ 76巻1号「生食のリスク」

生食はリスクが伴う—日本人の生食文化の歴史と安全性：奥村彪生, 6(1)

肉の生食と感染症・食中毒：工藤由起子, 11(1)

生食と腸管出血性大腸菌：寺嶋淳, 19(1)

生食とカンピロバクター：伊藤武・和田真太郎, 24(1)

食肉・野生動物の生食と寄生虫症：山崎浩・森嶋康之・八木田健司, 30(1)

魚介類の生食と感染症・食中毒：荒川英二, 37(1)

魚介類の生食と寄生虫症：三島伸介・西山利正, 40(1)

生野菜と寄生虫症：宇賀昭二, 47(1)

生水と原虫症(生水のリスク)：泉山信司・八木田健司・永宗喜三郎, 50(1)

◆ 76巻2号「セルフケアを支援する」

わが国におけるセルフケアの課題と展望：徳田安春・町淳二, 92(2)

適正なセルフメディケーションのために—OTC薬と関係者の役割：望月眞弓, 96(2)

セルフケア支援を意識した健康教育：岩永俊博, 101(2)

セルフケア支援における医療者の役割：松葉泰昌・佐藤寿一・伴信太郎, 105(2)

セルフケアの実際

①頭痛, めまい, しびれ：根来清, 109(2)

②聴力低下, 耳鳴り, めまい：小松崎篤, 114(2)

③低血圧, 冷え, むくみ：浅井貴絵・久代登志男, 120(2)

貧血, 高脂血症と食生活：丸山千寿子, 125(2)

高尿酸血症・痛風の生活指導：長瀬満夫, 130(2)

肥満解消に効果的な生活指導：大野誠, 133(2)

◆ 76巻3号「アルコール関連問題」

WHOの「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」：中山寿一, 178(3)

わが国のアルコール関連問題の現状と今後の対策：中山秀紀・樋口進, 183(3)

アルコール関連のうつ・自殺問題への対応—地域の関係機関連携による予防活動：猪野亜朗, 187(3)

アルコール依存症者に対する治療・回復支援体制の現状と課題：西脇健三郎, 191(3)

多量飲酒者に対する早期介入の重要性—ブリーフ・インターベンションの実践から：角南隆史・杠岳文, 195(3)

わが国の飲酒運転の現状と今後の対策：尾崎米厚, 200(3)

アルコールと生活習慣病予防—分子疫学研究の成果とその応用：竹下達也, 205(3)

大災害とアルコール関連問題：野田哲朗, 210(3)

◆ 76巻4号「地域医療の現状と将来展望」

わが国のプライマリ・ケア体制：尾身茂, 262(4)

わが国の地域医療政策の歩みと将来展望：信友浩一, 267(4)

小児医療体制の現状と将来展望：森臨太郎, 271(4)

産科・周産期医療の現状と将来展望：池ノ上克, 276(4)

低蔓延時代に向けた結核医療体制の課題と展望：阿彦忠之, 279(4)

地方都市の地域医療の現場—現状と将来展望：濱口實, 283(4)

大都市の地域医療の現場—東京都における救急医療体制の現状と課題：三浦邦久・石原哲, 287(4)

地域医療における保健所の役割：恵上博文, 292(4)

公立病院の歴史と現状, 課題：伊関友伸, 298(4)

◆ 76巻5号「高齢者の身近な疾患」

高齢者の運動器疾患：石橋英明, 344(5)

高齢者の眼科疾患：川島幸夫・川島裕子, 349(5)

高齢者の耳鼻科疾患：青柳優, 355(5)

高齢者の呼吸器科疾患：村木慶子・高橋和久, 360(5)

高齢者の泌尿器科疾患：後藤百万, 365(5)

高齢者の歯科疾患：安藤雄一, 370(5)

高齢者の栄養問題とその対策：熊谷修, 374(5)

高齢者のメンタルヘルス—うつ病と関連疾患を中心に：井原一成・飯田浩毅, 380(5)

◆ 76 巻 6 号「運動とは何か」

人々にとっての「スポーツ」と「運動」の意味を考える：西山哲郎，428(6)

子どもの発育と運動：草川功，432(6)

定期的な運動(身体活動)のもたらす健康上の効果：小熊祐子，437(6)

メディカルチェックと運動処方：庄野菜穂子，441(6)

性ホルモンと運動：相澤勝治・目崎登，448(6)

体温調節機能と運動：田中英登，452(6)

地域における健康づくりの方向転換：内藤義彦，456(6)

◆ 76 巻 7 号「在宅医療・地域包括ケア」

わが国の在宅医療の課題と展望—欧米諸国との比較を含めて：大熊由紀子，506(7)

改正介護保険法と地域包括ケアの展望：白澤政和，511(7)

「まちづくり」の視点から見た地域包括ケア：辻哲夫，518(7)

在宅高齢者の看取りにおける家族支援の重要性：叶谷由佳，523(7)

在宅医療への遠隔医療技術の活用：酒巻哲夫・長谷川高志，528(7)

生活困窮者等の地域包括ケアの実践：山下真実子，533(7)

がんの在宅緩和ケアの実践：小澤竹俊，537(7)

難病の在宅医療の実践：小西かおる，541(7)

◆ 76 巻 8 号「国際感染症対策の現状と課題」

グローバルヘルスのガバナンス—現状と課題：中谷比呂樹，586(8)

わが国の熱帯医学，国際感染症研究の歩み：山本太郎，592(8)

国際保健規則(IHR2005)の現状と課題：谷口清州，596(8)

新興感染症の研究および対策の現状と課題—世界と日本：押谷仁，601(8)

世界の結核の現状と輸入感染症としての課題：森亨，605(8)

感染性胃腸炎の現状と課題：小林宣道，610(8)

疾病根絶事業から見た国際感染対策の現状と課題：高島義裕，615(8)

HIV/AIDS 制圧に向けた世界の現状と課題：新井明日奈・玉城英彦，622(8)

国際保健における人材養成の現状と課題：中村安秀，628(8)

◆ 76 巻 9 号「独居高齢者と健康」

独居高齢者の現状および生活実態と課題：河合克義，676(9)

独居(一人暮らし)高齢者の自立度と健康課題：斉藤恵美子，681(9)

独居高齢者の孤立死の実態と防止策：岸恵美子，684(9)

独居高齢者の閉じこもり—その要因と支援：古田加代子，689(9)

独居高齢者の孤独感—その要因と支援：藤原武弘，693(9)

独居高齢者の食生活と栄養：山中克己，697(9)

大都市に暮らす独居男性高齢者の生活課題と自立支援：河野あゆみ・田高悦子，702(9)

独居高齢者問題—開業医の立場から：堂垂伸治，706(9)

◆ 76 巻 10 号「糖尿病の今」

わが国における糖尿病の現状と改善目標：西信雄，758(10)

糖尿病・肥満と死亡リスク，癌との関連について：福田一仁，762(10)

糖尿病と合併症を防ぐための初期対応：曾根博仁，766(10)

糖尿病医療に関わる地域関係機関の連携：岸本泰子，773(10)

肝疾患と糖尿病の最前線：齋藤貴史・佐藤智佳子・上野義之，779(10)

歯周病と糖尿病：西村英紀，783(10)

妊娠糖尿病と妊婦健診の今後：平松祐司，787(10)

糖尿病患者の療養指導：市來祐里恵，791(10)

食品の摂取スタイルと血糖への影響：今井佐恵子・梶山静夫，796(10)

◆ 76 巻 11 号「スクリーニング—その進化と課題」

進化するスクリーニング検査—その適用をめぐる課題と展望：祖父江友孝，844(11)

NCD 対策におけるスクリーニングの限界と展望：大島明，849(11)

新生児マスキューニングの新たな展開—タンデムマス法の導入：山口清次，853(11)

新生児聴覚スクリーニングの成果と今後の展望：福島邦博，858(11)

新しい胃がん検診方式の導入に向けた課題と展望：濱島ちさと，862(11)

尿マーカーによる骨粗鬆症検診の課題と展望：新飯田俊平，866(11)

軽度認知症のスクリーニング検査の進化と課題：本間昭，871(11)

慢性閉塞性肺疾患(COPD)のスクリーニングについて：小倉剛，875(11)

結核感染のスクリーニングの進化と課題：森亨，880(11)

◆ 76 巻 12 号「原子力災害と公衆衛生」

原子力災害を公衆衛生はどう受け止めるべきか：岸(金堂)玲子，928(12)

わが国の原子力施設の現状とシビアアクシデント：小澤守，933(12)

原子力災害に対する法制度について：永田尚三，940(12)

緊急被ばく医療体制の課題と放射線防護：神谷研二・谷川攻一・細井義夫，944(12)

原子力災害における保健所の役割：緒方剛，951(12)

原発被災地 南相馬から：菊地安德，957(12)

福島第一原子力発電所周辺自治体住民に対する保健サービスの現状と課題：大平洋子，961(12)

[インタビュー] 原子力発電所災害と保健所活動—国内初の原因事故経験から教訓を学ぶ：笹原賢司・草野文子・[インタビュー] 高島毛敏雄，966(12)

[特集コラム] 3.11 東日本大震災に伴う福島県双葉郡の医療課題：井坂晶，956(12)

視 点

結核分子疫学体制の今—克服すべき課題と展望について：和田崇之，2(1)

大都市の結核の新たな問題点：吉田道彦，88(2)

日本も国際保健規則(IHR)の真剣な導入を：砂川富正，174(3)

医師会活動と公衆衛生：近藤太郎，258(4)

災害後のこころのケア：鈴木友理子，340(5)

食品安全研究—農業経済学という視点：工藤春代，424(6)

社会経済の構造変化と医療政策の課題：村上正泰，502(7)

世代間交流と地域づくり：藤原佳典，582(8)

震災・原発事故と復興—福島県一保健所医師の視点から：金成由美子，672(9)

再び行政医師に戻って：福永一郎，754(10)

公衆衛生のフィールド：糸数公，840(11)

アジアの HIV 対策のこれまでとこれから：藤田雅美，924(12)

特別寄稿

被災地における感染症対策：浦部大策・帖佐徹・岩田欧介，54(1)

東日本大震災における国立病院機構の医療支援活動：國光文乃・岡田千春・道上幸彦・兼平正彦・梅田珠実，138(2)

港湾にある検疫所の仕事について：関なおみ，143(2)

東日本大震災から1年—岩手県からの報告—被災者の健康に関する長期追跡研究を実施中：坂田清美，215(3)

東日本大震災から1年—宮城県からの報告：辻一郎，218(3)

東日本大震災から1年—福島県からの報告—県民健康管理調査の概要：安村誠司，222(3)

東日本大震災から1年—福島県からの報告—放射線被曝のリスクに揺れて：福島哲仁，226(3)

被災地での医療支援活動と情報収集網の構築：浦部大策・帖佐徹・岩田欧介・松葉剛，712(9)

福島の放射線問題—少なかった県民の被ばく：斗ヶ沢秀俊，974(12)

特別記事

原子力災害における放射線被曝の長期的課題—チェルノブイリ事故医療支援の経験を通して：菅谷昭，462(6)

トピックス

国際シンポジウム「健康の社会的決定要因」を巡る国際的動向—「World Trend in Research of Social Determinants of Health」に参加して：田中剛，384(5)

原 著

子宮頸がん検診の無料クーポン券配布および未受診者への受診再勧奨の効果：コール・リコール制度の試み：伊藤ゆり・北尾淑恵・中山富雄・渋谷大助，827(10)

資 料

新型インフルエンザ流行時のインターネット検索頻度から見た情報の推移：梶木綾・河合夏実・倉田明奈・垣本和宏，79(1)

1998 年以降のわが国における自殺死亡の季節変動：山内貴史・竹島正・稲垣正俊，574(7)

Positive Deviance(片隅の成功者)アプローチ対策が
困難な公衆衛生の問題に対処する革新的手法：湯浅
資之・河村洋子・助友裕子・Arvind Singhal,
742(9)

東京都脳卒中救急搬送体制実態調査：高橋郁美・櫻山
豊夫・櫻井幸枝・大久保さつき・有賀徹, 912(11)
公衆衛生研究における社会階層指標構築の重要性：本
庄かおり・堤明純, 916(11)

活動レポート

職域における通信による飲酒行動変容プログラムの長
期効果：足達淑子・田中みのり・高梨愛子・渡邊ち
さと・小林和弘・武見ゆかり, 250(3)
高齢者の介護予防一板橋区おとしより保健福祉センタ
ーの取り組みより：新井恵子・伊藤利津子,
746(9)

海外事情

バングラデシュ・パイガサの調査報告：梅村朋弘・長
谷川美香・日下幸則・福原輝幸, 661(8)

フォーラム

シンデミックと HIV/AIDS：新ヶ江章友, 330(4)

連載

◆ 保健活動の try！ 学会で発表しよう 論文を執筆しよう：中村好一

さて、論文執筆(投稿雑誌を選ぶ)：63(1)
論文執筆の前に(投稿規定を読む)：151(2)
論文の構成：233(3)
「緒言」：305(4)
「方法」：391(5)
「結果」：472(6)
「考察」：548(7)
図表の作成：633(8)
論文のその他の部分：718(9)
論文投稿の前に：800(10)
編集委員会とのやりとり(その1)：885(11)
編集委員会とのやりとり(その2)：979(12)

◆ 災害を支える公衆衛生ネットワーク～東日本大震災からの復旧、復興に学ぶ：佐々木亮平・岩室紳也

公衆衛生版トリアージの実際：309(4)
被災地の復旧、復興に不可欠な公衆衛生機能とは：
397(5)
災害時の情報共有の課題—インターネット活用の視点

から：478(6)

専門職の公的短期派遣の意義と課題：553(7)

健康・生活調査(全戸訪問調査)：640(8)

「場」づくりを意識した企画調整機能の重要性：
722(9)

長期派遣総括保健師の役割：佐々木亮平・岩室紳也・
日高橘子：805(10)

こころのケアとは—ハイリスクアプローチの視点か
ら：891(11)

こころのケアとは—ポピュレーションアプローチの視
点から：983(12)

◆ 講座/健康で持続的な働き甲斐のある労働へ—新しい仕組みをつくろう

序：働く人の雇用環境と職場の安全衛生が日本で今な
ぜ最重要なのか？：岸(金堂)玲子, 313(4)

現代日本の長時間過重労働の実態とその背景：森岡孝
二, 402(5)

過重労働と過労死をいかに防止するか：森岡孝二,
482(6)

非正規雇用労働者の安全・健康・権利：矢野栄二,
558(7)

非正規雇用—労働法から見た問題点と今後の解決の方
向性：和田肇, 645(8)

子育てと仕事の両立の現状と課題—ワークライフバラ
ンスと家庭生活・健康の向上に向けて：小林章雄,
727(9)

税・社会保障一体改革により、「逆機能」の解消を：
大沢真理, 810(10)

職場のメンタルヘルスの現状と課題—わが国の課題と
国際的動向の分析：川上憲人, 896(11)

これからの職場のメンタルヘルス対策—第一次予防へ
の新しいアプローチと職場復帰の支援：川上憲人,
989(12)

◆ 「笑門来健」笑う門には健康来る！～笑いを生かした健康づくり：大平哲也

「笑い」とは？—なぜ今、「笑い」が注目されているの
か？：319(4)

「笑い」はどうやって測定するの？—「笑い」の測定法
について：407(5)

笑うと痛みが減る？—「笑い」と「痛み」との関連に
ついて：486(6)

笑うと血糖値が下がる？—「笑い」と「糖尿病」との
関連について：563(7)

笑うと血圧が下がる？—「笑い」と「高血圧・循環器
疾患」との関連について：649(8)

笑うとがんが予防できる？—「笑い」と「免疫」との

関連について：731(9)
笑うとストレスが解消できる？—「笑い」とストレス
ホルモンとの関連について：815(10)
笑って認知症予防？—「笑い」と「認知症」との関連
について：900(11)
笑うとリラックスできるの？—「笑い」と「自律神
経」との関連について：993(12)

◆ フィールドに出よう！

フィールドワークは宝さがし：神馬征峰，71(1)
沈黙は罪なり—ガーナでの寄生虫対策：野中大輔，
159(2)
フィールドは辛くて，とても面白い—コロンビア
JICA 長期専門家としての地雷被災者支援：高橋
競，242(3)
公衆衛生活動の糧はフィールドワーク！—中国・青年
海外協力隊で新しい自分と出会う：齋藤順子，
322(4)
フィールドは世界と自分に向き合う場：高橋朋子，
412(5)
その先で待っているのは，成長した自分と元気な子ど
もたち—ザンビア HIV 母子感染予防に関するフィ
ールド調査：大川純代，489(6)
フィールドワークの長い道のり—人々の顔の見える研
究のために：菊地君与，567(7)
海外を自分のフィールドにすること—ハイチの
震災復興支援—歌って踊るヘルスプロモーション：
長谷川文，653(8)
フィールドを楽しむための3つのポイント：古林安希
子，735(9)
困難な社会状況の中，懸命に生きる人々の姿—中米と
タイ・ミャンマー国境地帯での活動経験から：秋山
剛，819(10)
共に暮らし，心通わせ，同じ目標に向かう—スラン
カ農村の環境を活かしてマラリア予防：安岡潤子，
904(11)
フィールドワーカーたちの空：神馬征峰，997(12)

◆ リレー連載・列島ランナー

発災直後から重要であった口腔ケア—気仙沼で展開す
る口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポー
ト：古屋聡，75(1)
東日本大震災を経験して—気仙沼の保健師として：前
田知恵子，163(2)
地域の健康のためにできることは？—カンボジア，留
寿都村，気仙沼：大泉樹，246(3)
北海道の真ん中から地域自殺予防対策を叫ぶ：青野美
智代，326(4)

危機管理における保健所の役割—東日本大震災での被
災地派遣と放射線対策から：宮島浩二，416(5)
忘れられない結核事案：郷右近初女，493(6)
外科医が見た地域中核病院の苦悩：結城敬，571(7)
佐久地域保健福祉大学と同窓会—“種子まき人”の活動
経過と病院の関わり：水澤美芳，657(8)
食育推進計画とその取り組み：上村敦子，739(9)
みんなで支える，横浜の小児救急医療—つなぐ保健師
の役割：横森喜久美，823(10)
保健所の認知症対策—地域基礎研修会に取り組んで：
布施寿美江，908(11)
専門機関が少ない地域での療育支援の取り組み：木村
直子，1001(12)

◆ 衛生行政キーワード

「相双地域医療従事者確保支援センター」の設置につ
いて：町田宗仁，167(2)
母子健康手帳の改正について：馬場征一，333(4)
災害医療等のあり方に関する検討会について：村上佳
菜子，496(6)
医療計画の見直しについて：田辺正樹，665(8)
食品中の放射性物質の新たな基準値の概要：鈴木貴
士，833(10)
認知症の医療計画について：福生泰久・江副聡，
1007(12)

◆ 人を癒す自然との絆：大塚敦子

食を通じてつくるコミュニティの絆：60(1)
農場で優しさを学ぶ：148(2)
エンパワーメントの場としての農場：230(3)
動物のメタファーを人との関係に生かす：302(4)
子どもたちの生きる力を引き出すドルフィン・セラピ
ー：388(5)
介助犬を育てる少女たち：470(6)

「人を癒す自然との絆」を絶やさない明日へ—福島
の被災猫との出会いから見てきたもの：546(7)

◆ 地域づくりのためのメンタルヘルス講座

支援へのインターネットの活用について教えて下さ
い：末木新，67(1)
地域からこころの医療のネットワークづくりはどのよ
うに進められるのですか？：岩田和彦，155(2)
公衆衛生の精神保健，精神保健医療のこれから—本連
載をもとに：竹島正，237(3)

コラム

◆ 列島情報：日置敦巳

日本農村医学会：49(1)
施術所：209(3)

インフルエンザの流行：308(4)

野菜摂取量：348(5)

災害弱者対策：540(7)

地域のつながり：591(8)

病院医師数：761(10)

インフルエンザと小中学校の臨時休業：870(11)

高齢化の進展への対応：965(12)

◆ 予防と臨床のはざまで：福田洋

ミシガンでの減量：84(1)

第9回日本ヘルスプロモーション学会に参加して：
170(2)

東京都がん検診推進サポーター講演会：232(3)

「さんぽ会」2月月例会「5年目を迎える特定保健指導」報告：304(4)

第30回国際産業衛生学会参加ダイジェスト(その1)：
390(5)

第30回国際産業衛生学会参加ダイジェスト(その2)：
477(6)

第30回国際産業衛生学会参加ダイジェスト(その3)：
578(7)

第85回日本産業衛生学会健康教育・ヘルスプロモーション研究会：668(8)

25年ぶりの湯野浜と企業における禁煙推進講演会：
750(9)

産保合同シンポジウム報告：836(10)

さんぽ会夏季セミナー 2012：920(11)

第71回日本公衆衛生学会シンポジウム：1006(12)

◆ 沈思黙考：林謙治

今回の災害から行政は何を学ぶか：62(1)

世界の生活習慣病対策：129(2)

日本の未来予測：182(3)

災害時の遺体処置に尊厳を：297(4)

「合成の誤謬」とは？：354(5)

「特定健診・保健指導のあり方検討会」にて：461(6)

専門分化と組織：536(7)

高コスト体質：652(8)

賢者から何を、どう引き継ぐか：726(9)

人権意識の高まりと訴訟社会：804(10)

ソーシャルキャピタル：911(11)

ルールと「情の感覚」のはざまで：1005(12)

◆ 映画の時間：桜山豊夫

運命の子：36(1)

ポエトリー アグネスの詩：169(2)

アーティスト：229(3)

アンネの追憶：266(4)

オレンジと太陽：379(5)

ミッドナイト・イン・パリ：436(6)

キリマンジャロの雪：527(7)

The Lady アウンサンスーチーひき裂かれた愛：
664(8)

あの日 あの時 愛の記憶：734(9)

人生、いろいろ：765(10)

もういいかい～ハンセン病と三つの法律～：865(11)

医す者として―映像と証言で綴る農村医療の戦後史：
988(12)

◆ 公衆衛生 Books

生きる力の源に―がん闘病記の社会学：10(1)

健康なくに 2011―災害が問いかける「公衆衛生と
は？」：113(2)

消えた山：566(7)

介助犬を育てる少女たち：621(8)

心の病 回復への道：738(9)

心の病の「流行」と精神科治療薬の真実：996(12)

Q&A 児童虐待防止ハンドブック：1010(12)

◆ 公衆衛生「書評」

WHOをゆく―感染症との闘いを超えて：堀田 力，
359(5)

消えた山：松島松翠，701(9)